

ASSP

FeRAM 搭載高速 RFID LSI

MB89R119B

■ 概要

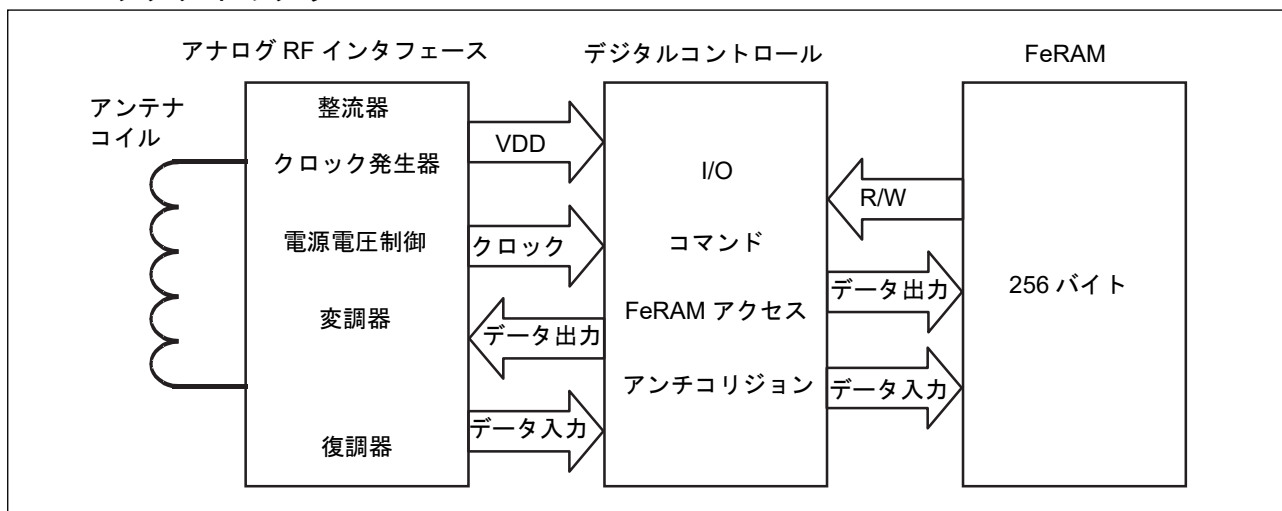
MB89R119B は、FeRAM を 256 バイト搭載した近傍型 RFID 用 LSI で、高速、高頻度書換えを特長とします。

■ 特長

- ・メモリ容量: FeRAM 256 バイト (ユーザ領域: 232 バイト)
- ・1 ブロック 4 バイト, 64 ブロック構成
- ・高速データ送受信: 26.48 kbps
- ・Fast コマンド対応 (データ送信: 52.97 kbps) (応答器→リーダライタ)
- ・キャリア周波数: 13.56 MHz
- ・アンチコリジョン機能: 40 枚 /s (ASK 100% 使用時)
- ・書込み / 読出し耐性: 10^{12} 回
- ・データ保持特性: 10 年 (+ 85 °C), 30 年 (+ 70 °C)
- ・64 ビット UID
- ・FeRAM メモリデータ保護
- ・盗難防止 (EAS) コマンド
- ・通信永久停止 (Kill) コマンド
- ・通信仕様: ISO/IEC 15693, ISO/IEC 18000-3 (モード 1) (*)

* : 「■ 使用上の注意事項」を参照してください。

■ ブロックダイアグラム



富士通セミコンダクターメモリソリューション株式会社はRAMXEED株式会社に社名変更しました。
RAMXEED株式会社は既存の富士通の製品型格のまま引き続き製品提供しサポートしていきます。

MB89R119B

■ メモリマップ

MB89R119B は、FeRAM メモリで構成される内部メモリを持ちます。

・FeRAM の構成

FeRAM は、232 バイトのユーザ領域と、24 バイトのシステム領域で構成されます。

この FeRAM は、トータルとして 58(ユーザ領域) + 6(システム領域) = 64 のブロックで構成され、各ブロックは 32 ビット (4 バイト) のデータから構成されています。

ブロックは FeRAM データの書き込みまたは読出しを規定するための単位です。以下に、FeRAM のメモリ構成を示します。

・FeRAM のメモリ構成

領域	ブロック番号	詳細	データ読出し	データ書き込み
ユーザ領域 (232 バイト)	00H ~ 39H	ユーザ領域	○	○
システム領域 (24 バイト)	3AH	RFU*	○	×
	3BH	UID1 (1 ~ 32 ビット)	○	×
	3CH	UID2 (33 ~ 64 ビット)	○	×
	3DH	EAS, AFI, DSFID, IC リファレンス	○	一部可能
	3EH, 3FH	ブロックセキュリティステータス	○	×

* : Reserved for future use

ブロック番号“00H”から“39H”までがユーザ領域にあたります。ユーザ領域は、ブロックアドレスの指定によってアクセスが可能な領域です。一方、ブロック番号“3AH”から“3FH”までがシステム領域にあたり、特定のコマンドによってのみアクセスが可能な領域です。

システム領域は、6 ブロック構成で RFU, UID, AFI, DSFID, EAS, IC リファレンスおよび各ブロックのセキュリティ状態 (書き込み不可かどうか) のデータが入っています。ここで、UID, IC リファレンスおよび RFU の書換えはできません。AFI, DSFID および EAS ビットは出荷時にデータが書き込まれ、コマンドにより書き換えたり、ロック (書き込み不可) することが可能です (EAS ビットはロックできません)。

表に示すように、“3BH”と“3CH”は UID、“3EH”と“3FH”がユーザ領域および AFI, DSFID のセキュリティ状態のデータに使用されます。

“3DH”~“3FH”ブロックの構成を以下に示します。“3DH”ブロックは、EAS ビット、AFI, DSFID と IC リファレンスで構成されます。

“3EH”と“3FH”ブロックは、ブロックセキュリティ状態のデータが入っています。

・ “3DH” の構成

MSB					LSB				
32	31	25	24	17	16	9	8	1	
EAS ビット		Internally used		IC リファレンス		DSFID		AFI	

・ “3EH” および “3FH” の構成

ユーザブロック 1FH のブロックセキュリティステータス (BSS)

MSB					LSB				
	32	31	...	26	...	1			
3EH			...						00H の BSS
3FH	AFI ロックステータス	DSFID ロックステータス	RFU* (4 ビット)	39H の BSS	...				20H の BSS

* : Reserved for future use

ユーザ領域のセキュリティ状態のデータは、“3EH”と“3FH”の 2 ブロックのブロックセキュリティステータスビットに各ブロック 1 ビットずつ格納されています。ブロックセキュリティステータスが“0”データのときはロック (書き込み不可状態) されていない状態、“1”データのときはロックされていることを示します。同様に AFI と DSFID のセキュリティ状態のデータは、“3FH”の AFI ロックステータス、DSFID ロックステータスに格納されています。

EAS ビットは 1 ビットで構成され、EAS ステータスの設定に利用されます。

なお、MB89R119B では、コマンド 1 回あたり最大で 2 ブロックのデータ書き込み、64 ブロックのデータ読出しが可能です。

■ データエレメントの定義

1. Unique Identifier (UID)

MB89R119B には、64 ビットの UID があります。UID は、アンチコリジョンアルゴリズムにおいて、各応答器を区別するために使用されます。

UID は、以下の 3 項目から構成されています。

- ・ “E0H” と固定される 8 ビットデータ (bit 57 ~ bit 64)
- ・ ISO/IEC 7816-6/AMI で定義された 8 ビットの IC 製造者コード (bit 49 ~ bit 56, “08H” で固定)
- ・ 弊社が付与する 48 ビットのユニークなシリアルナンバ (bit 1 ~ bit 48)

MB89R119B における弊社が付与する 48 ビットのユニークなシリアルナンバのうち、bit 41 ~ bit 48 の 1 バイトは MB89R119B を表すコード “02H” として使用します。また、bit 1 ~ bit 40 の 5 バイトはその他シリアルナンバとして使用します。

UID の構成						
MSB			LSB			
64	57	56	49	48	41 40	1
“E0H”		IC 製造者コード “08H”		“02H”	その他シリアルナンバ	
				弊社が付与するユニークなシリアルナンバ		

2. Application Family Identifier (AFI)

AFI は応答器で設定したアプリケーションの種類を示します。

AFI はコマンドによって、書き込めます。AFI は 8 ビットのデータで、FeRAM のシステム領域に格納されます。

AFI の出荷初期値は “00H” です。

・ AFI の種類

分野選択 (bit 8 ~ bit 5)	詳細項目選択 (bit 4 ~ bit 1)	アプリケーション使用分野	例 / 詳細
“0”	“0”	すべてのアプリケーションに対応	アプリケーションの指定なし
X	“0”	すべての X 分野に対応	分野のみ指定
X	Y	X 分野の Y 項目のみ対応	—
“0”	Y	Y 項目をもつすべての分野に対応	—
“1”	“0”, Y	交通	大型輸送, バス, 航空
“2”	“0”, Y	金融	IEP, 銀行, 小売業
“3”	“0”, Y	個人認証	アクセス制御
“4”	“0”, Y	電気通信	公共電話通信, GSM
“5”	“0”, Y	医療	—
“6”	“0”, Y	マルチメディア	インターネットサービス
“7”	“0”, Y	ゲーム	—
“8”	“0”, Y	データ格納	携帯ファイル
“9”	“0”, Y	EAN-UCC システム	ISO/IEC JTC 1/SC 31 が管理
“A”	“0”, Y	ISO/IEC JTC 1/SC 31	ISO/IEC 15418 規定のデータ識別子
“B”	“0”, Y	UPU	ISO/IEC JTC 1/SC 31 が管理
“C”	“0”, Y	IATA	ISO/IEC JTC 1 が管理
“D”	“0”, Y	RFU *	ISO/IEC JTC 1/SC 17 が管理
“E”	“0”, Y		ISO/IEC JTC 1/SC 17 が管理
“F”	“0”, Y		ISO/IEC JTC 1/SC 17 が管理

* : Reserved for future use

(注意事項) X, Y は、共に “1” ~ “F” までを表します。

AFI_flag (bit 5) がセットされている状態では、下記のようになります。

- ・ 応答器が AFI をサポートしていない場合：すべてのリクエストに対して無応答です。
- ・ 応答器が AFI をサポートしている場合：リーダーライタからの AFI 指定が一致したときのみ応答します。

MB89R119B

3. Data Storage Format Identifier (DSFID)

DSFID は、データが応答器 LSI メモリでどのように構成されているかを示します。DSFID はコマンドによって、書き込みます。

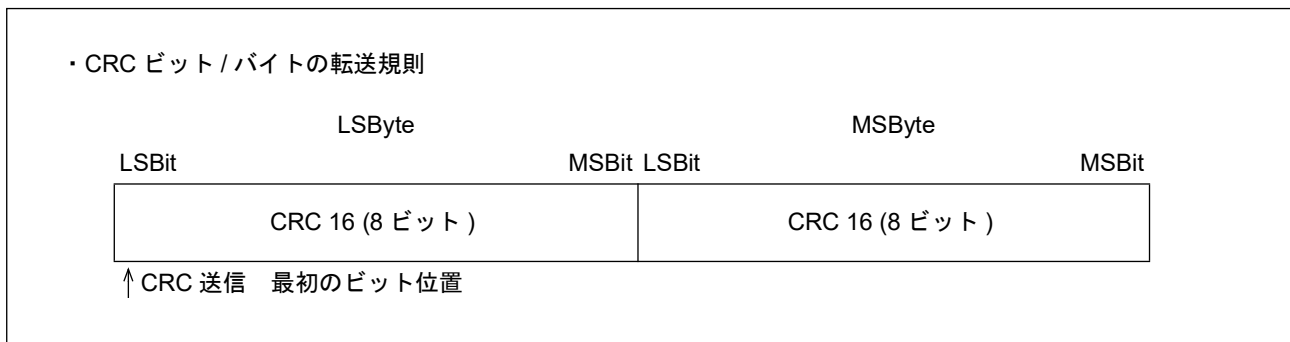
DSFID は 8 ビットのデータで、FeRAM のシステム領域に格納されます。DSFID の出荷初期値は“01H”です。

4. Cyclic Redundancy Check (CRC)

フレームを構成するキャラクタに関しては、CRC 値が正当であった場合のみ、受信側が正しいデータを受信したと解釈します。エラーチェックのため、2 バイトの CRC 値がデータと EOF の間に組み込まれています。

CRC 値は、SOF から CRC フィールドの間に含まれるフレーム内のすべてのデータから求められます。計算方法は ISO/IEC 13239 に規定され、詳細は ISO/IEC 15693-3 および ISO/IEC 18000-3 (モード 1) に規定されています。CRC チェックで使用される初期値は ISO/IEC 15693-3 の規定に従い“FFFFH”です。

CRC は、最下位バイト、最下位ビットから送信されます。



5. Electronic Article Surveillance (EAS) ステータス

EAS ステータスは 1 ビットのデータで、FeRAM のシステム領域に格納されます。初期値は“1”です。EAS ビットが“1”の場合は物品監視状態を意味して、EAS ビットが“0”の場合は物品監視解除を意味します。EAS ステータスは Write EAS コマンドで書き込むことが可能です。また、Read Single Block などの Read 系コマンドでステータスを確認できます (“3DH” ブロックを指定:「■メモリマップ」を参照してください)。

EAS コマンドとゲートリーダなどを組み合わせて盗難防止セキュリティ機能を持たせることができます。

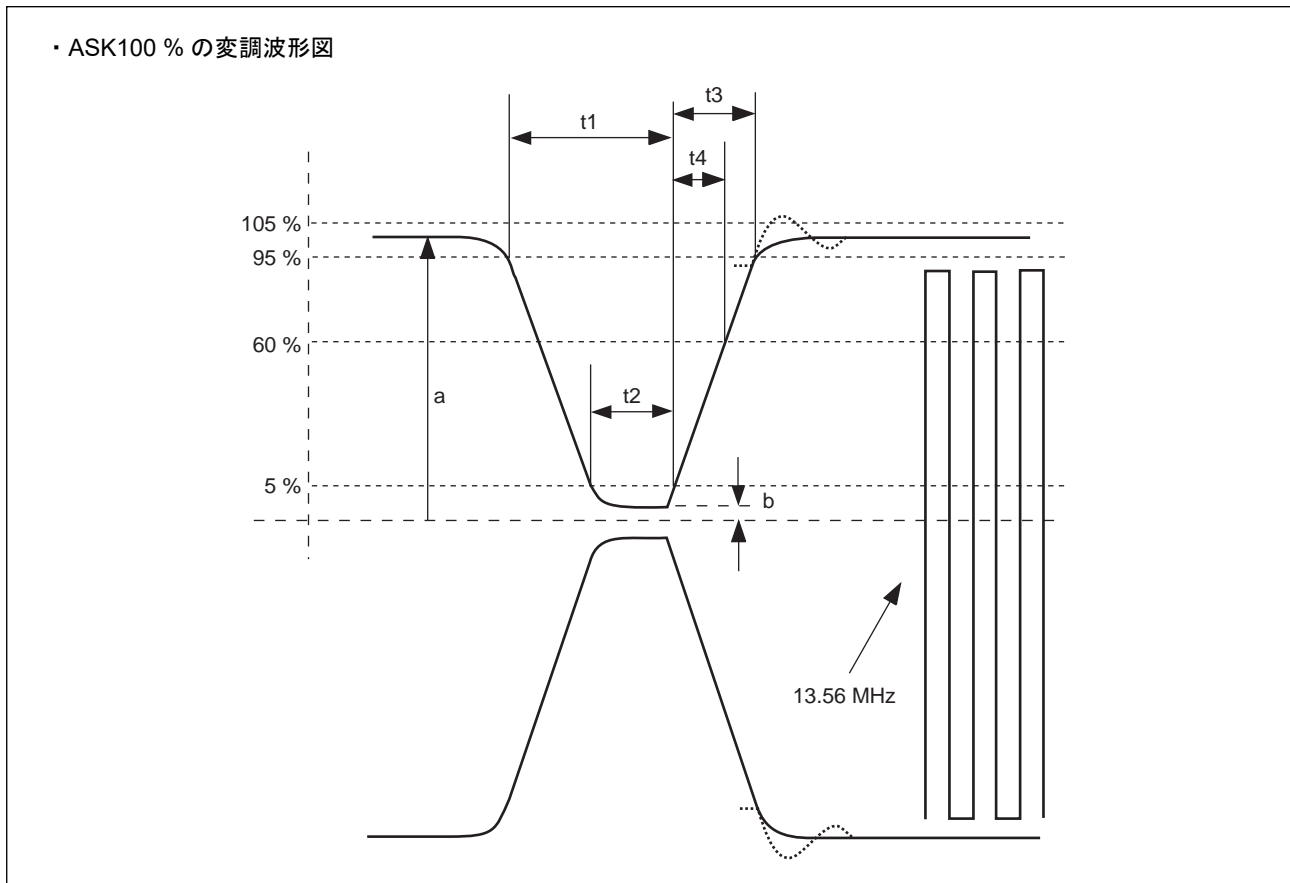
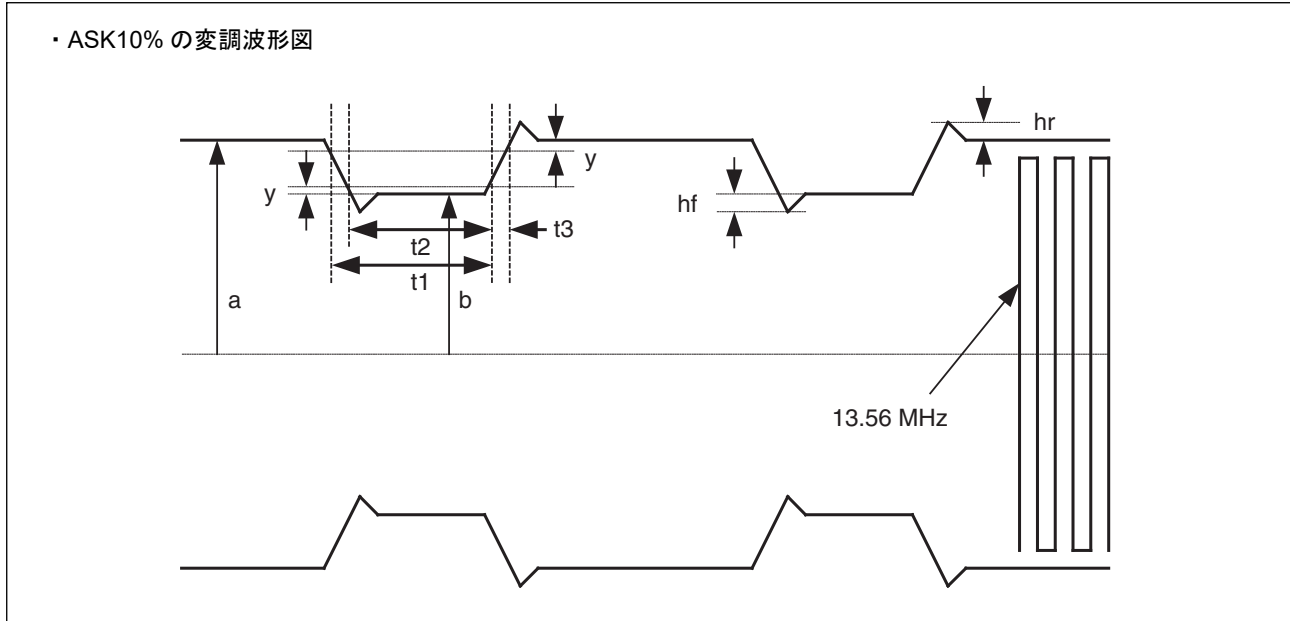
■ 機能説明

1. リーダライタから応答器への通信

(1) 変調方式

MB89R119B は ASK10% 変調と ASK100% 変調の 2 種類をサポートします。

変調度 m は, 以下に示す変調波形図において, $m = (a - b)/(a + b)$ として定義されます。ここで a と b は, それぞれリーダライタから送信される磁界強度の振幅の最大値と最小値です。



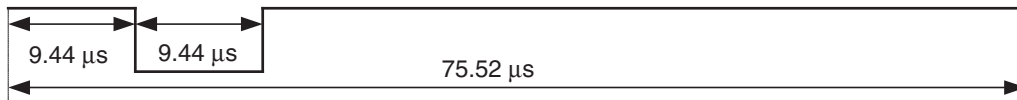
$t1, t2, t3$ の最大値, 最小値は“推奨動作条件”にて規定します。ここで, y は $0.05(a - b)$, hf と hr の最大値は $0.1(a - b)$ です。

(2) データレートとデータコーディング

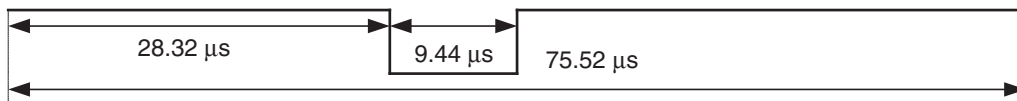
MB89R119B は 1 out of 4 モードのみをサポートします (1 out of 256 モードはサポートしていません)。1 out of 4 モードでは、2 ビットの信号を 75.52 μs の区間中に下図のようにコーディングします。このときのデータレートは、26.48 kbps ($fc/512$) です。信号は下位ビットから送信されます。

・ 1 out of 4 モードのコーディング方式

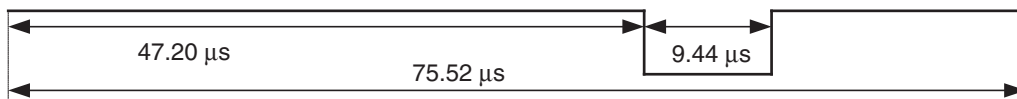
・ “00_B” のパルス位置



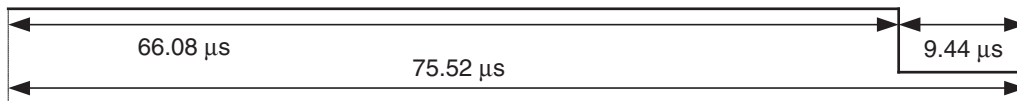
・ “01_B” のパルス位置 (1 = LSB)



・ “10_B” のパルス位置 (0 = LSB)



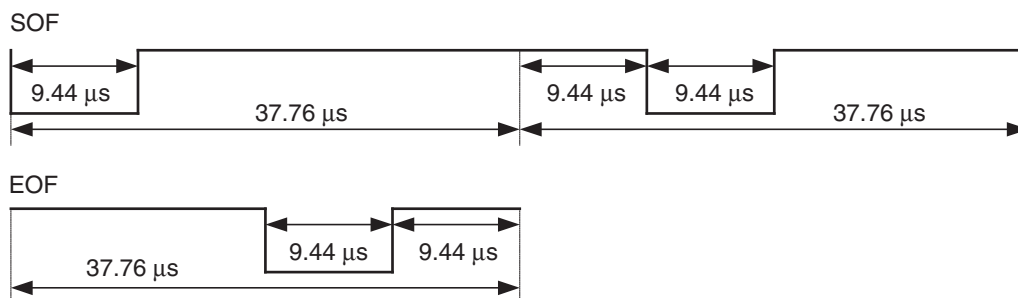
・ “11_B” のパルス位置



(3) データフレーム

各データフレームは、スタートオブフレーム (SOF) で始まり、エンドオブフレーム (EOF) で終了します。リーダライタにフレームを送信し終えて 300 μs 以内に、リーダライタからのフレームを受信できます。また、パワー印加後 1 ms 以内に、リーダライタからのフレームを受信できます。

・ リーダライタから送信されるフレームの SOF および EOF の波形



2. 応答器からリーダーライタへの通信

- ・ 最小負荷変調振幅 V_{lm} : 10 mV (ISO/IEC 10373-7 による)
- ・ 負荷変調サブキャリア周波数 f_s : 423.75 kHz ($f_c/32$)

MB89R119B は 1-サブキャリア方式のみをサポートします (2-サブキャリア方式はサポートしていません)。

- ・ データレート : データレートには、以下の 2 モードが存在します。
 - ・ Low データレート
 - ・ High データレート

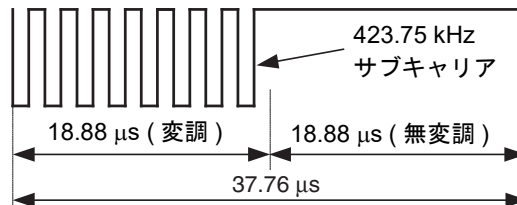
これらのデータレートは、以降で述べるリーダーライタから送信される `Data_rate_flag` (bit 2) で指定します。データレートは、Low 時が 6.62 kbps ($f_c/2048$)、High 時が 26.48 kbps ($f_c/512$) です。また、カスタム高速コマンド受信時は、2 倍のデータレートで応答器から通信を行います。この時も Low データレートと High データレートの 2 モードが存在し、`Data_rate_flag` (bit 2) で指定します。データレートは、Low 時が 13.24 kbps ($f_c/1024$)、High 時が 52.97 kbps ($f_c/256$) です。

(1) ビットコーディング

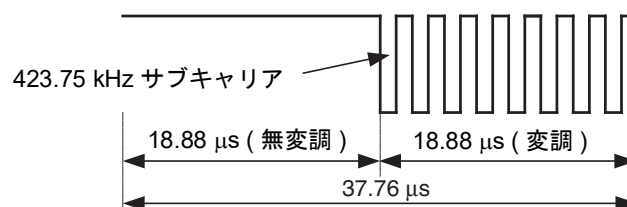
ビットコーディングは、Manchester 方式を使用します。通常コマンド受信時の High データレートの変調信号およびカスタム高速コマンド受信時の High データレートの変調信号を以下に示します。通常コマンド、カスタム高速コマンドともに Low データレート時には、サブキャリアのパルス数とデータ転送時間が 4 倍になります。

・ 通常コマンド High データレート時の負荷変調された信号波形

・ ロジック 0

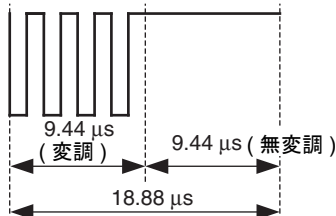


・ ロジック 1

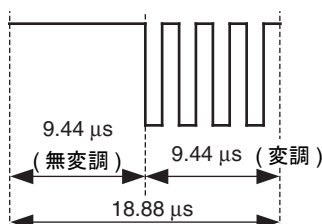


・ カスタム高速コマンド High データレート応答時の負荷変調された信号波形

・ ロジック 0



・ ロジック 1



(2) データフレーム

応答器から送信される各データフレームはスタートオブフレーム (SOF) で始まり, エンドオブフレーム (EOF) で終了します。通常コマンド受信時の High データレート時の SOF および EOF, カスタム高速コマンド受信時の High データレート時の SOF および EOF を以下に示します。

通常コマンド, カスタム高速コマンドとともに Low データレート時には, サブキャリアのパルス数およびデータ転送時間が 4 倍になります。

リーダーライタは応答器にフレームを送信し終えた後の 300 μs 以内に, 応答器からのフレームを受信可能にする必要があります。

・通常コマンド時に応答器から送信されるフレームの SOF および EOF の波形

・ SOF

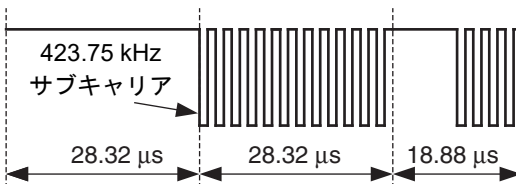


・ EOF

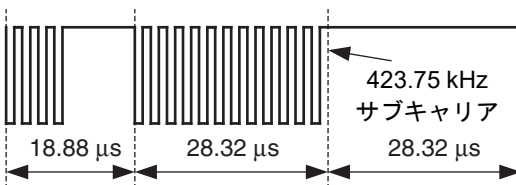


・カスタム高速コマンド時に応答器から送信されるフレームの SOF および EOF の波形

・ SOF



・ EOF



3. データ書込み中電源途絶時の FeRAM データ保護

MB89R119B は、FeRAM へ 1 バイトごとのアクセスを行っています。アクセス中に電源供給の途絶があった場合には、LSI 上の平滑容量に蓄積された電荷により FeRAM へのアクセス動作を完了し、データの誤書込みを防止します。このため、Write AFI, Write DSFID, Write EAS, Lock 系コマンドに関して、電源途絶時にもデータを保証します。また Write Single Block コマンドなど複数バイトデータの書込みコマンドに関しては、電源途絶時にすべてのデータ書込みが終了していない可能性があります。この場合は、正常にデータ書込みが行われたのか、Read 系のコマンドを使ってご確認ください。

4. リクエスト/レスポンス

リーダーライタから応答器には“リクエスト”が送信され、それに対応して応答器からリーダーライタへ“レスポンス”を送信します。

リクエストとレスポンスは各 1 個のフレームに含まれます。

・リクエスト/レスポンスの構成

リクエストは、以下の 5 つのフィールドで構成されます。

- ・ フラグ
- ・ コマンドコード
- ・ パラメータ (コマンドによって強制的に、あるいはオプションとして追加されます。)
- ・ アプリケーションデータ
- ・ CRC

また、レスポンスは、以下の 4 つのフィールドで構成されます。

- ・ フラグ
- ・ パラメータ (コマンドによって強制的に、あるいはオプションとして追加されます。)
- ・ アプリケーションデータ
- ・ CRC

各バイトは、下位ビットから送信します。また、複数のバイトを送信する場合には、下位バイトから転送します。

5. 動作モード

MB89R119B の動作モードには、以下の 3 種類があります。

それぞれ、リーダーライタからのリクエストに対して応答器がレスポンスを返すメカニズムを規定しています。

・ Addressed モード

Addressed モードは、Address_flag が“1”にセットされた場合に選択されます。

このモードでは、リクエストは UID を含み (同時に Address_flag は“1”に設定されています)、リクエストに含まれた UID が一致した応答器のみがレスポンスを返します。一致しない場合は、レスポンスを返しません。

・ Non-Addressed モード

Non-Addressed モードは、Address_flag が“0”にセットされた場合に選択されます。

このモードでは、リクエストは UID を含みません。リクエストを受信した応答器は、コマンドに従って実行・応答を行います。

・ Select モード

Select モードは、Select_flag が“1”、かつ Address_flag が“0”にセットされた場合に選択されます。

このモードでは、UID をリクエストに含めないでください。コマンドを受信した応答器のうち、Select 状態にあるもののみがコマンドに従って実行・応答を行います。

MB89R119B

6. リクエストのフォーマット

下図に典型的なリクエストのデータフォーマットを、下表にリクエストフラグの各ビットの構成を示します。

・リクエスト・フレームの構成

SOF	フラグ	コマンドコード	パラメータ	データ	CRC	EOF
-----	-----	---------	-------	-----	-----	-----

・bit 1 ~ bit 4 の設定

bit	フラグ名称	1/0	状態 / 説明
1	Sub-carrier_flag	0	1- サブキャリアを選択
		1	2- サブキャリアを選択 (サポートしていません。)
2	Data_rate_flag	0	Low データレート (6.62 kbps) を選択
		1	High データレート (26.48 kbps) を選択
3	Inventory_flag	0	Inventory コマンド以外のコマンドを選択
		1	Inventory コマンドを選択
4	Protocol_Extension_flag	0	プロトコル拡張なし
		1	プロトコル拡張あり (RFU)

* : Reserved for Future use

(注意事項) bit 3 の “Inventory_flag” によって, “Inventory コマンド” を使用 (“1” を選択) するか, その他のコマンドを使用 (“0” を選択) するかを決定します。

・bit 5 ~ bit 8 の設定 (Inventory コマンドを選択 [Inventory flag=“1”])

bit	フラグ名称	1/0	状態 / 説明
5	AFI_flag	0	AFI の設定なし
		1	AFI の設定あり (応答器は AFI が一致すると応答します。)
6	Nb_slots_flag	0	16 スロット
		1	1 スロット
7	Option_flag	0	コマンドのオプション設定なし
		1	コマンドのオプションあり (サポートしていません。)
8	RFU *	0	“0” に設定してください。
		1	—

* : Reserved for future use

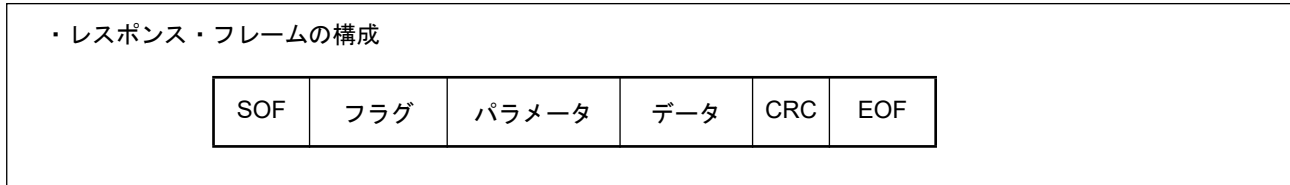
・bit 5 ~ bit 8 の設定 (Inventory コマンド以外を選択 [Inventory flag=“0”])

bit	フラグ名称	1/0	状態 / 説明
5	Select_flag	0	Address_flag の内容によって実行します。
		1	Select モード (Select 状態の応答器のみレスポンスを返します。) Address_flag は, “0” に設定します。
6	Address_flag	0	Non Addressed モード (コマンドに UID を含みません。)
		1	Addressed モード (コマンドに UID を含みます。)
7	Option_flag	0	コマンドのオプション設定なし (Option_flag のサポートがないコマンドは “0” を選択してください。)
		1	コマンドのオプション設定あり。
8	RFU *	0	“0” に設定してください。
		1	—

* : Reserved for future use

7. レスポンスのフォーマット

下図に典型的なレスポンスのデータフォーマットを、下表にレスポンスフラグとエラーコードの定義を示します。
 Error_flag (bit 1) が“1”にセットされた場合には、エラーコードフィールドが設けられます。つまり、Error_flag (bit 1) が“0”の場合はエラーなし、“1”の場合は何らかのエラーが発生したことを示します。



・レスポンスフラグの定義

bit	フラグ名称	ステート	状態
1	Error_flag	0	エラーなし。
		1	エラーあり。
2	RFU *	0	“0”に設定されます。
3	RFU *	0	“0”に設定されます。
4	Extension_flag	0	“0”に設定されます。
5	RFU *	0	“0”に設定されます。
6	RFU *	0	“0”に設定されます。
7	RFU *	0	“0”に設定されます。
8	RFU *	0	“0”に設定されます。

* : Reserved for future use

・エラーコードの定義

エラーコード	意味
“01”	コマンドがサポートされていません。 例) コマンドコードエラー
“02”	コマンドが認識できません。 例) フォーマット・エラー
“03”	オプションがサポートされていません。
“10”	指定されたブロックは利用できません(存在しません)。
“11”	指定されたブロックはロック済みであり、再ロックできません。
“12”	指定されたブロックはロック済みであり、内容を変更することはできません。
“13”	指定されたブロックに、正常に書き込みできません(書き込み時のバリファイでエラーが発生しました)。
“14”	指定されたブロックを、正常にロックできません(ロック時のバリファイでエラーが発生しました)。

8. アンチコリジョンアルゴリズム

MB89R119Bでは、ISO/IEC 15693で規定されたアルゴリズムでアンチコリジョンループを実行します。
 アンチコリジョンアルゴリズムでは、リーダーライタの通信領域に存在する複数の応答器に対して、UIDをベースに調査します。
 リーダーライタは、Inventoryコマンドを発行し、応答器は「10. 応答器におけるInventoryコマンドの実行」で詳述するアルゴリズムに従ってレスポンスを返信するか、無応答状態となります。

9. リクエストパラメータ

・リクエストパラメータの設定

Inventory コマンドを発行する場合、リーダーライタは以下の設定を行ってください。

- ・リクエストフラグにおける Nb_slots_flag (bit 6) を所定の値に設定します。
 - “0” : 16 スロット (複数応答器対応)
 - “1” : 1 スロット (単数応答器対応)
- ・マスク長とマスク値をコマンドコードの後に付加します。
- ・マスク長は、マスク値のデータ長をビットで表します。
- ・マスク値は、整数バイト長のデータで、下位ビットから送信します。もし、マスクするデータ長が 8(ビット) の倍数でなければ、バイト単位のデータ長になるように、マスク値の MSB 側に 0 がパディングされます。

下図に、マスク値にパディングを行った例を示します。マスク長は 12 ビットであるため、バイト単位のデータ長になるように(この場合は 2 バイト = 16 ビット)マスク値の MSB 側から 4 ビットがパディングされています。

また、「6. リクエストのフォーマット」の「リクエスト・フレームの構成」において、AFI-flag (bit 5) がセットされた場合には、AFI フィールドが付加されます。コマンドの終了時には、「1. リーダライタから応答器への通信」に記載の EOF が送信され、その後、直ちに第 1 スロットが開始されます。次のスロットに移る場合、リーダーライタは EOF を送信します。

・コマンドのフォーマット

SOF	フラグ	コマンドコード	Optional AFI	マスク長	マスク値	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット	8 ビット	8 ビット	0 ~ 64 ビット	16 ビット	

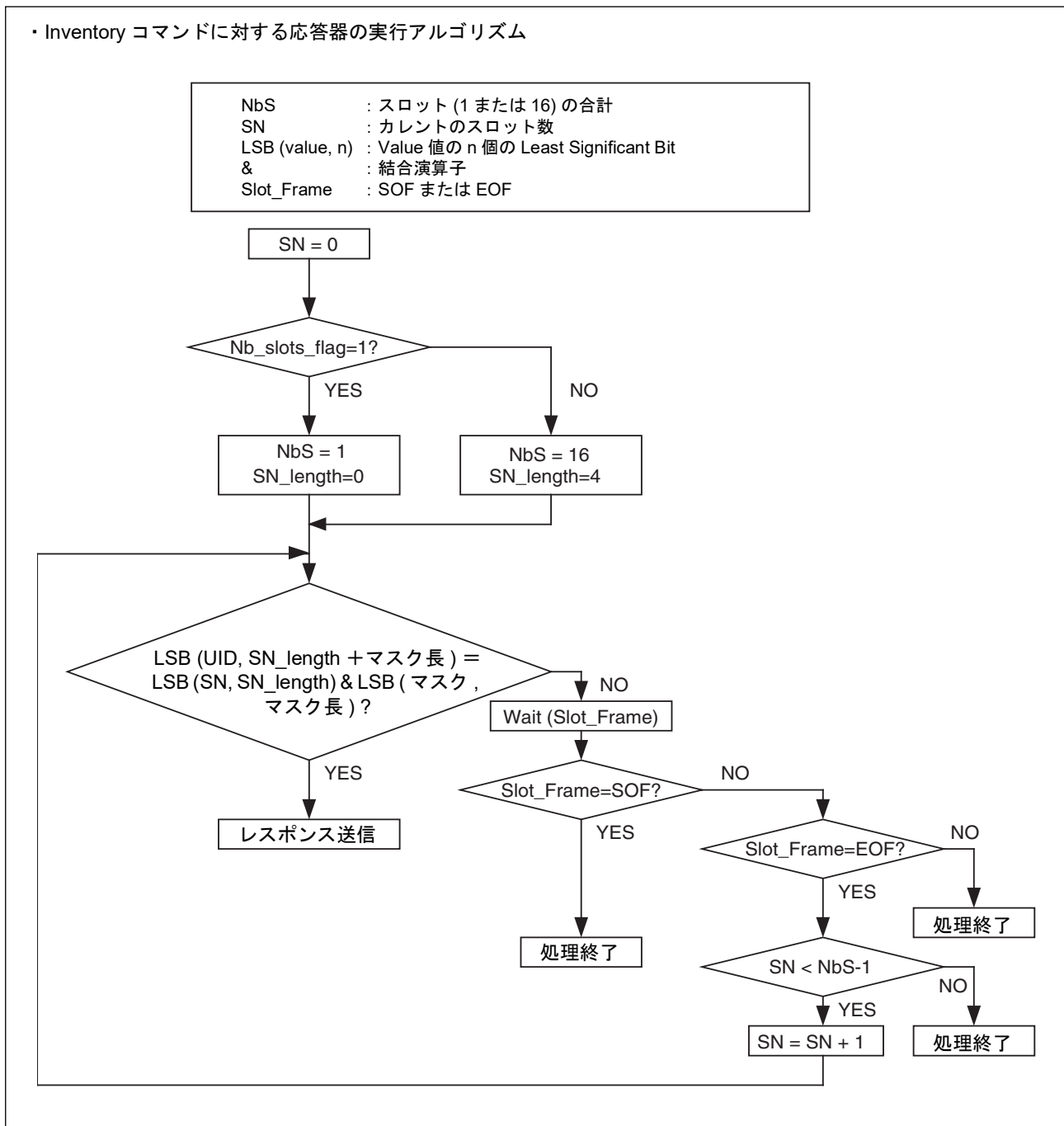
・マスク値にパディングを施した例	
MSB	LSB
0000	0100 1100 1111
Pad	マスク値

10. 応答器における Inventory コマンドの実行

応答器は, Inventory コマンドから送信されたマスク値と EOF の送信回数から決定されるスロット数の結合値が UID と等しい場合に, レスポンスを送信します。

・ 応答器の実行アルゴリズム

下図に, Inventory コマンドを受信した場合の応答器の実行アルゴリズムを示します。また, 次図に, UID とマスク値の関係を示します。



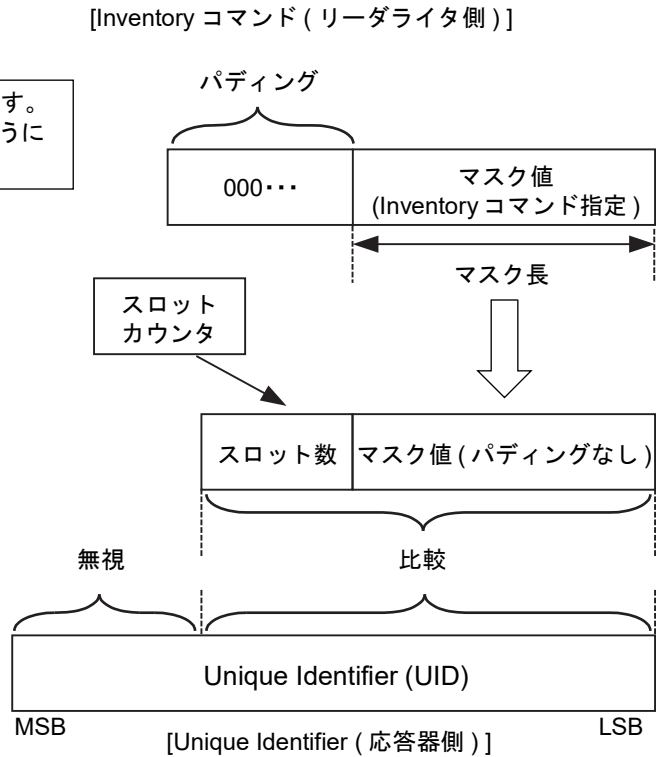
・マスク値, スロット数と UID の比較

Inventory コマンドは, マスク値とマスク長を含みます。マスク値は, バイト単位 (8 ビットの倍数) になるように上位ビット側に "0" をパディングします。

Inventory コマンドを受信すると, スロットカウンタを "0" にリセットします。

EOF を受信すると, 応答器はスロットカウンタのインクリメントを開始します。

応答器の UID の最下位ビットと比較します。マスク値と一致した場合は, 応答器がレスポンスを返します。



11. アンチコリジョンシーケンス

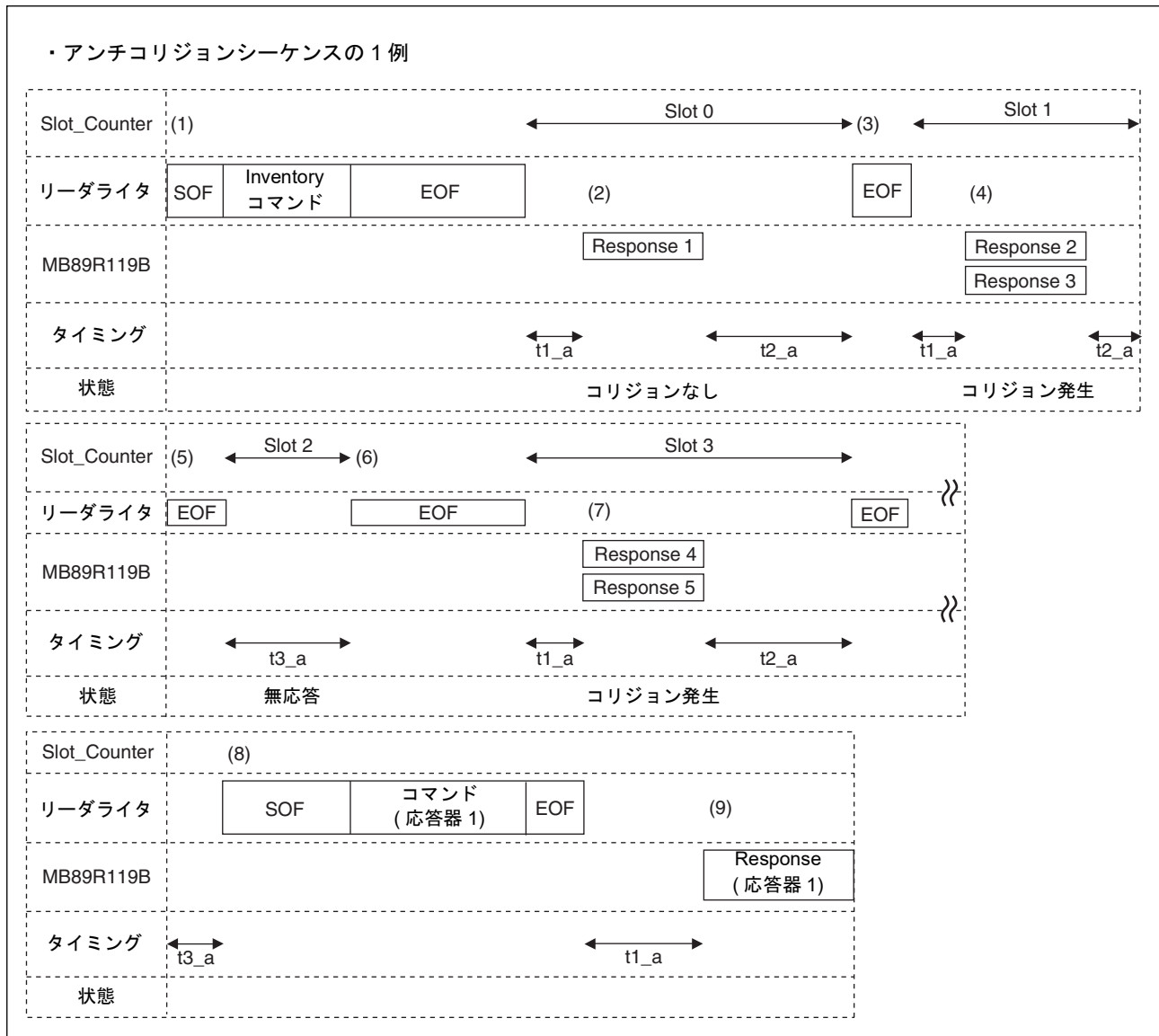
・ アンチコリジョンシーケンスの実行

スロット数が 16 の場合、典型的なアンチコリジョンシーケンスは以下のように実行されます。

- (1) リーダライタが、Inventory コマンドを送信します。スロット数はリクエストフラグ中の Nb_slots_flag ビットを“0”とすることで設定されます。
 - (2) Inventory コマンドの EOF の立上り時間を起点にし t1_a 時間後に、応答器 1 がスロット 0 でレスポンスを返します。このとき、他の応答器からのレスポンスはなく、リーダーライタが、応答器 1 の UID を認識します。
 - (3) リーダライタが応答器 1 からのレスポンスを受信後、最低 t2_a 時間待って EOF を送信し、次のスロットに移ります。
 - (4) スロット 1 では、リーダーライタから送信された EOF の立上り時間を起点にし t1_a 時間後に、応答器 2 と応答器 3 がレスポンスしたため、リーダーライタは 2 つの応答器の UID を認識できず、スロット 1 でコリジョンが発生したことを記憶します。
 - (5) リーダライタが応答器 2 と応答器 3 からのレスポンスを受信後、最低 t2_a 時間待って EOF を送信し、次のスロットに移ります。
 - (6) スロット 2 では、応答器からのレスポンスは検出されず、リーダーライタから送信された EOF の立上り時間を起点にし最低 t3_a 時間待って EOF を送信して次のスロットに移ります。
 - (7) スロット 3 では、リーダーライタから送信された EOF の立上り時間を起点にし t1_a 時間後に、応答器 4 と応答器 5 からのレスポンスにより、別のコリジョンが発生します。
 - (8) アンチコリジョンシーケンス中にリーダーライタは、UID が取得されている応答器 1 に対するリクエスト (例えば、後述する Read Single Block コマンド) を送信したとします。
 - (9) すべての応答器は SOF を受信することにより、アンチコリジョンシーケンスから抜け出します。このとき、Addressed モードが使用されることにより、応答器 1 のみがレスポンスを返します。
 - (10) すべての応答器は、リーダーライタからの別のリクエストを受け付けることができます。もう一度 Inventory コマンドを実行する場合には、スロット番号は 0 からスタートすることになります。
- (注意事項) t1_a, t2_a と t3_a については、「12. タイミングに関する定義」を参照してください。

MB89R119B

・アンチコリジョンシーケンスの1例



12. タイミングに関する定義

(1) リーダライタの EOF 送信から MB89R119B の送信開始までの待ち時間 : t1_a

MB89R119B は、リーダライタから送信された EOF の検出後、レスポンスを送信するまで t1_a の応答待ち時間を持ちます。t1_a は EOF の立上り時間を起点にし、最小値 : 4320/fc (318.6 μs)、公称値 : 4352/fc (320.9 μs)、最大値 : 4384/fc (323.3 μs) が定義されます。

t1_a 時間内にリーダライタからの ASK100% 変調信号を検出した場合、t1_a 時間はリセットされ、さらに t1_a 時間待ちます。また、t1_a 時間内に ASK10% 変調信号を検出しても、変調信号を無視してそのまま t1_a 時間だけ送信開始を待ちます。

ISO/IEC 15693-3、および ISO/IEC 18000-3 (モード 1) の規格において、Write 系コマンドの応答待ち時間 t1_a の最大値は定義されていませんが、MB89R119B では応答待ち時間 t1_a を上記と同様に最小値 : 4320/fc (318.6 μs)、公称値 : 4352/fc (320.9 μs)、最大値 : 4384/fc (323.3 μs) と定義します。Option_flag を “1” にした場合の応答タイミング条件は、各コマンドの説明で記載するタイミングに従ってください。

(2) リーダライタの EOF 送信から MB89R119B の変調無視時間 : tmit

MB89R119B は、リーダライタから送信された EOF の検出後、tmit の時間リーダライタからの ASK10% 変調信号を無視します。tmit は、EOF の立上がり時間を起点にし、その最小値は 4384/fc (323.3 μs) + tnr と定義します。ここで、tnr は MB89R119B の応答時間を表します。

(3) リーダライタのリクエスト送信待ち時間 : t2_a

ISO/IEC 15693-3、および ISO/IEC 18000-3 (モード 1) の規格においてリーダライタは、リクエスト (Inventory コマンドと Stay Quiet コマンドを除く) に対する応答器からのレスポンスを受信した場合、次のリクエストを送信するまで t2_a の待ち時間 (最小値は 309.2 μs) が必要であると定義されます。

また、Stay Quiet コマンド、Kill コマンドなど、レスポンスを返さないコマンドあるいは MB89R119B からレスポンスがない場合、リーダライタから送信されるリクエストの EOF 立上りから 309.2 μs 後にコマンド受信が可能になります。

(4) Inventory リクエストにおけるリーダライタのリクエスト送信待ち時間 : t2inv

Inventory コマンドの実行時には、リーダライタは EOF を送信して次のスロットへ移ります。この場合の待ち時間は、応答器からのレスポンスの有無によって、以下のように定義されます。

- リーダライタが 1 個以上の応答を受け取った場合 : t2invwr

ISO/IEC 15693-3、および ISO/IEC 18000-3 (モード 1) の規格において、リーダライタが 1 個以上のレスポンスを受信した場合には、応答器のレスポンスの完了 (リーダライタが EOF を受信した場合、もしくは tnr が経過したとき) を待ち、さらに、t2_a の待ち時間経過後、ASK10% あるいは ASK100% の EOF を送信して次のスロットへの変更を行いません。

- リーダライタが応答を受け取らなかった場合 : t3_a

MB89R119B からのレスポンスがない場合、リーダライタは EOF を送信するまで t3_a の待ち時間が必要です。ここで、t3_a はその前に送信された EOF の立上がりエッジを起点とします。t3_a の最小値はそれぞれ以下のとおり定義します。

a) リーダライタが ASK10% 変調の EOF を送信した場合

t3_a (ASK10%) の最小値は「・タイミング仕様」に示した 4384/fc (323.3 μs) + tnr になります。

b) リーダライタが ASK100% 変調の EOF を送信した場合

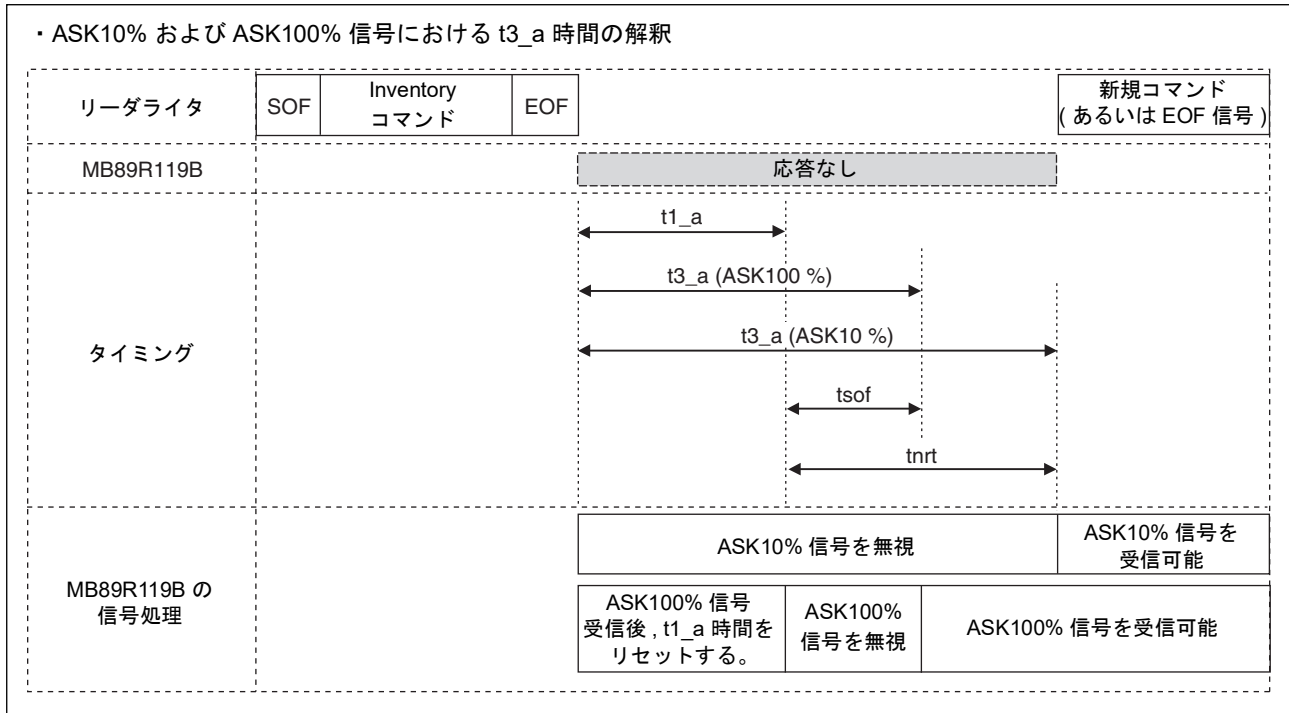
t3_a (ASK100%) の最小値は「・タイミング仕様」に示した 4384/fc (323.3 μs) + tsof になります。

tnr : 応答器の応答時間

tsof : 応答器からリーダライタに SOF 信号を送信する時間

MB89R119B

・ ASK10% および ASK100% 信号における t3_a 時間の解釈



・ タイミング仕様

	最小	標準	最大
t1_a	4320/fc (318.6 μs)	4352/fc(320.9 μs)	4384/fc (323.3 μs)
tmit	4384/fc (323.3 μs)+ tnrt	—	—
t2_a	4192/fc (309.2 μs)	—	—
t2invwr	t2_a + tnrt	—	—
t3_a (ASK10%)	4384/fc (323.3 μs)+ tnrt	—	—
t3_a (ASK100%)	4384/fc (323.3 μs)+ tsof	—	—
tnrt	—	Low データレート : 15708.16 μs High データレート : 3927.04 μs 高速 Low データレート : 7854.08 μs 高速 High データレート : 1963.52 μs	—
tsof	—	Low データレート : 604.16 μs High データレート : 151.04 μs 高速 Low データレート : 302.08 μs 高速 High データレート : 75.52 μs	—

■ コマンド一覧

MB89R119B のコマンドコードは、ISO/IEC 15693-3 に規定された Mandatory コマンドおよび Optional コマンドをサポートしています (一部未対応: 詳細は「■ 使用上の注意事項」を参照してください)。

Custom コマンドとしては、以下のコマンドをサポートしています。

- ・ EAS コマンド : 盗難防止, 商品監視で使用します。
- ・ Write EAS コマンド : EAS ビットの書込みをします。
- ・ Fast コマンド : レスpons時間を通常コマンドの半分にします。
- ・ Kill コマンド : タグの機能を無効にします。

・コマンドリスト

コマンドコード	コマンド名	コマンドタイプ	詳細
“01H”	Inventory	Mandatory	アンチコリジョンシーケンスを実行し, UID を取得します。
“02H”	Stay Quiet	Mandatory	Quiet 状態に移行します。
“20H”	Read Single Block	Optional	ユーザ領域 / システム領域の指定された 1 ブロックのデータを読み出します。
“21H”	Write Single Block	Optional	ユーザ領域の指定された 1 ブロックにデータを書き込みます。
“22H”	Lock Block	Optional	ユーザ領域の指定された 1 ブロックをロック (書込み不可) 状態にします。
“23H”	Read Multiple Blocks	Optional	ユーザ領域 / システム領域の指定された最大 64 ブロックのデータを読み出します。
“24H”	Write Multiple Blocks	Optional	ユーザ領域の指定された 1 ブロックあるいは 2 ブロックのデータを書き込みます。
“25H”	Select	Optional	タグを Select (選択通信) 状態にします。
“26H”	Reset to Ready	Optional	タグを Ready (通信可能) 状態にします。
“27H”	Write AFI	Optional	FeRAM に AFI (Application Family Identifier) のデータを書き込みます。
“28H”	Lock AFI	Optional	AFI (Application Family Identifier) のデータをロック (書込み不可) 状態にします。
“29H”	Write DSFID	Optional	DSFID (Data Storage Format Identifier) のデータを FeRAM に書き込みます。
“2AH”	Lock DSFID	Optional	DSFID (Data Storage Format Identifier) のデータをロック (書込み不可) 状態にします。
“2BH”	Get System Information	Optional	チップの UID, DSFID, AFL, 1 ブロックに格納できるバイト数, ユーザ領域のブロック数, IC の情報を読み出します。
“2CH”	Get Multiple Block Security Status	Optional	システム領域に格納されたブロックセキュリティステータスの情報を読み出します。
“A0H”	EAS	Custom	EAS ビットが “1” に設定されている場合のみレスポンス (レスポンスコードを 6 回繰返し) を返します。
“A1H”	Write EAS	Custom	EAS のデータを書き込みます。1 ビット構成になっていて, データが “0” のときは盗難防止解除, 物品管理解除となり, データが “1” のときは物品管理状態に設定されます。
“A6H”	Kill	Custom	タグを無効状態にします。
“B1H”	Fast Inventory	Custom	高速応答する Inventory コマンドです。
“C3H”	Fast Read Multiple Blocks	Custom	高速応答する Read Multiple Blocks コマンドです。
“C4H”	Fast Write Multiple Blocks	Custom	高速応答する Write Multiple Blocks コマンドです。

■ コマンド概要

1. Mandatory コマンドの概要

1-1. Inventory コマンド

Inventory コマンドは、アンチコリジョンシーケンスを実行するコマンドです。

本コマンドでエラーを検出した場合は、エラー応答を返しません。

Inventory_flag(bit 3) を“1” に設定してください。

AFI_flag(bit 5) を“1” に設定した場合、Inventory コマンドの Optional AFI 値と応答器で設定された AFI 値が以下の場合のみレスポンスを返します。

- Optional AFI 値と応答器の AFI 値が一致した場合
- Optional AFI 値の上位 4 ビットが“0H”かつ下位 4 ビットと応答器の AFI 値の下位 4 ビットが一致した場合
- Optional AFI 値の下位 4 ビットが“0H”かつ上位 4 ビットと応答器の AFI 値の上位 4 ビットが一致した場合
- Optional AFI 値が“00H”の場合

例えば、応答器の AFI 値が“69H”の場合には、Optional AFI 値が“69H”、“60H”、“09H”、“00H” に設定された場合のみレスポンスを返します。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Inventory)	Optional AFI	マスク長	マスク値	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“01H”)	8 ビット	8 ビット	0 ~ 64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

SOF	フラグ	DSFID	UID	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	8 ビット	64 ビット	16 ビット	

1-2. Stay Quiet コマンド

Stay Quiet コマンドを受信した応答器は、Quiet 状態に移行します。レスポンスはエラーも含めて送信を行いません。

Quiet 状態では、Inventory_flag (bit 3) が“1” に設定されたリクエストの実行は行わず、Address_flag (bit 6) が“1” に設定されたコマンドのみを実行します。

応答器が Quiet 状態から抜け出すのは、以下のいずれかの場合のみです。

- Power-off の状態
- Select コマンドを受信した場合。Select 状態に移行します。
- Reset to Ready コマンドを受信した場合。Ready 状態に移行します。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Stay Quiet)	UID(必須)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“02H”)	64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

無応答

2. Optional コマンドの概要

2-1. Read Single Block コマンド

Read Single Block コマンドを受信した応答器は、要求された 1 ブロックのデータを読み出します。
 Option_flag (bit 7) が “1” に設定された場合には、応答器はブロックセキュリティステータスを追加します。
 Option_flag (bit 7) が “0” の場合は、該当するブロックのデータのみを送信します。

- ・リクエスト
 [リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Read Single Block)	UID (Addressed モードの場合)	ブロック番号	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“20H”)	64 ビット	8 ビット	16 ビット	

- ・レスポンス
 [応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	ブロックセキュリティステータス (オプション)	データ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	8 ビット	32 ビット	16 ビット	

2-2. Write Single Block コマンド

Write Single Block コマンドを受信した応答器は、リクエストに含まれる 1 ブロックデータを書き込みます。
 書き込み時にはバリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。
 Option_flag (bit 7) が “0” の場合には、応答器は書き込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数” に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が “1” に設定された場合には、応答器はリーダーライターからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に終われないときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

- ・リクエスト
 [リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Write Single Block)	UID (Addressed モードの場合)	ブロック 番号	データ	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“21H”)	64 ビット	8 ビット	32 ビット	16 ビット	

- ・レスポンス
 [応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-3. Lock Block コマンド

Lock Block コマンドを受信した応答器は、要求された 1 ブロックのデータを永久的にロック (書込み不可) します。書込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”に設定された場合には、応答器はリーダーライターからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われないときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

Lock Block コマンド受信後、ロックされたブロックは、“Write Single (Multiple) Block(s)” コマンドでデータの変更ができなくなります。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Lock Block)	UID (Addressed モードの場合)	ブロック番号	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“22H”)	64 ビット	8 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-4. Read Multiple Blocks コマンド

Read Multiple Blocks コマンドを受信した応答器は、要求された複数の連続したブロックのデータを読み出します。一度のリクエストで読み出し可能なブロック数は最大 64 ブロックです。

Option_flag (bit 7) が“1”に設定された場合には、応答器はブロックセキュリティステータスを追加します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合は、該当するブロックのデータのみを送信します。

リクエストに含まれるブロック数は、応答器が送信するブロック数から 1 を引いた値になります。ブロック数を“06H”と表記すると、7 ブロック 読み出すリクエストになります。また、ブロック数を“00H”と表記すると、1 ブロック 読み出すリクエスト (Read Single Block コマンドと同じリクエスト) になります。ブロック数は最大“3FH”まで表記可能です。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Read Multiple Blocks)	UID (Addressed モードの場合)	先頭の ブロック番号	ブロック数	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“23H”)	64 ビット	8 ビット	8 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	ブロックセキュリティステータス (オプション)	データ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	8 ビット	64 ビット	16 ビット	
必要に応じて繰り返す					

2-5. Write Multiple Blocks コマンド

Write Multiple Blocks コマンドを受信した応答器は、リクエストに含まれる複数の連続したブロック・データの書込みを行います。一度のリクエストで書込み可能なブロック数は最大2ブロックです。

書込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。また、Read Multiple Blocks コマンドと同様、リクエストに含まれるブロック数は、応答器が送信するブロック数から1を引いた値になります。ブロック数を“01h”と表記すると、2ブロック書き込むリクエストになります。また、ブロック数を“00h”と表記すると、1ブロック書き込むリクエスト (Write Single Block コマンドと同じリクエスト) になります。

リクエストで指定したブロックのうち少なくとも1つがロックされていた場合は、書込みを行わずエラー応答を送信します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”に設定された場合には、応答器は EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われなときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Write Multiple Blocks)	UID (Addressed モードの場合)	先頭の ブロック 番号	ブロック数	データ	CRC	EOF
	8ビット	8ビット (“24h”)	64ビット	8ビット	8ビット	32 または 64ビット	16ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8ビット (“01h”)	8ビット	16ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8ビット (“00h”)	16ビット	

2-6. Select コマンド

Select コマンドを受信した応答器のうち、リクエストに含まれた UID と一致した応答器は Select 状態に移行して、レスポンスを送信します。

一方、UID と一致しない応答器は、レスポンスを送信せずに Ready 状態に戻ります。Select コマンドは Addressed モードでのみ使用できます。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Select)	UID (必須)	CRC	EOF
	8ビット	8ビット (“25h”)	64ビット	16ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8ビット (“01h”)	8ビット	16ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8ビット (“00h”)	16ビット	

2-7. Reset to Ready コマンド

Reset to Ready コマンドを受信した応答器は、Ready 状態に戻ります。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Reset to Ready)	UID (Addressed モードの場合)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“26H”)	64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-8. Write AFI コマンド

Write AFI コマンドを受信した応答器は、AFI のデータを FeRAM に書き込みます。

書き込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書き込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”に設定された場合には、応答器はリーダーライターからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われなときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Write AFI)	UID (Addressed モードの場合)	AFI	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“27H”)	64 ビット	8 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-9. Lock AFI コマンド

Lock AFI コマンドを受信した応答器は、AFI のデータを永久的にロック (書込み不可) します。

書込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”に設定された場合には、応答器はリーダーライタからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われなときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

Lock AFI コマンド受信後は、“Write AFI” コマンドで AFI のデータの変更ができなくなります。

・リクエスト

[リーダーライタ→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Lock AFI)	UID (Addressed モードの場合)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“28H”)	64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライタ]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-10. Write DSFID コマンド

Write DSFID コマンドを受信した応答器は、DSFID のデータを FeRAM に書き込みます。

書込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”にセットされた場合には、応答器はリーダーライタからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われなときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

・リクエスト

[リーダーライタ→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Write DSFID)	UID (Addressed モードの場合)	DSFID	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“29H”)	64 ビット	8 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライタ]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-11. Lock DSFID コマンド

Lock DSFID コマンドを受信した応答器は、DSFID のデータを永久的にロック (書込み不可) します。

書込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/f_c (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/f_c (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”にセットされた場合には、応答器はリーダーライターからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われなときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

Lock DSFID コマンド受信後は、“Write DSFID” コマンドで DSFID のデータの変更ができなくなります。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Lock DSFID)	UID (Addressed モードの場合)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“2Ah”)	64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

2-12. Get System Information コマンド

Get System Information コマンドを受信した応答器は、UID、AFI、DSFID などのチップ情報を読み出します。

・リクエスト

[リーダライタ→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Get System Information)	UID (Addressed モードの場合)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“2B _H ”)	64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダライタ]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01 _H ”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	Information フラグ	UID	DSFID	AFI	メモリサイズ	IC リファレンス	CRC	EOF
	8 ビット (“00 _H ”)	8 ビット	64 ビット	8 ビット	8 ビット	16 ビット	8 ビット	16 ビット	

以下に Information フラグの定義と Get System Information コマンドのレスポンスに含まれるメモリサイズ情報 (応答器メモリサイズ情報) を示します。ただし、応答器メモリサイズ情報のブロックサイズおよびユーザ領域のブロック数は実際の数より 1 小さい数で示されます。

・ Information フラグの定義

bit	フラグ名称	状態	説明
1	DSFID	0	DSFID はサポートされていません / 存在しません。
		1	DSFID はサポートされています / 存在します。
2	AFI	0	AFI はサポートされていません / 存在しません。
		1	AFI はサポートされています / 存在します。
3	メモリサイズ	0	メモリサイズの情報がサポートされていません / 存在しません。
		1	メモリサイズの情報がサポートされています / 存在します。
4	IC リファレンス	0	IC リファレンスの情報がサポートされていません / 存在しません。
		1	IC リファレンスの情報がサポートされています / 存在します。
5	RFU *	—	常に “0” に設定されています。
6	RFU *	—	
7	RFU *	—	
8	RFU *	—	

* : Reserved for future use

(注意事項) MB89R119B では、“0F_H” に設定 (Information フラグの bit 1 から bit 4 は “1” に設定 , bit 5 から bit 8 は “0” に設定) されます。

・ 応答器メモリサイズ情報

MSB		LSB	
16	14 13	9 8	1
RFU *	ブロックサイズ (1 ブロック単位のバイト数)	ユーザ領域のブロック数	

* : Reserved for future use

(注意事項) MB89R119B では、ブロックサイズが 4 バイト、ユーザ領域のブロック数が 58 ブロック構成なので、メモリサイズ情報は 16 進数で “0339_H” となります。

2-13. Get Multiple Block Security Status コマンド

Get Multiple Block Security Status コマンドを受信した応答器は、システム領域に格納されたブロックセキュリティステータスを読み出します。

一度のリクエストで読出し可能なブロック数は、最大 58 ブロックです。ブロック数には、ブロック数から 1 を引いた値を指定してください。

先頭のブロック番号は、8 の倍数値で指定してください。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Get Multiple Block Security Status)	UID (Addressed モードの場合)	先頭の ブロック番号	ブロック数	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“2Ch”)	64 ビット	8 ビット	8 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	ブロックセキュリティ ステータス	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	8 ビット (必要に応じて繰り返し)	16 ビット	

3. Custom コマンド

Custom コマンドには IC 製造者コードが必要です。MB89R119B の IC 製造者コードは “08H” です。

3-1. EAS コマンド

EAS コマンドを受信した応答器は、EAS ビットが “1” の場合、指定されたフラグ (“00H”) の後にレスポンスコード “5AH” を 6 回応答し、EAS ビットが “0” の場合には、無応答となります。このコマンドは、Ready 状態のみ実行が可能です。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (EAS)	IC 製造者コード (必須)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“A0H”)	8 ビット (“08H”)	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

SOF	フラグ	レスポンスコード	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	48 ビット (“5AH” を 6 回繰返す)	16 ビット	

3-2. Write EAS コマンド

Write EAS コマンドを受信した応答器は、EAS ビットを FeRAM に書き込みます。

書き込み時にベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。

盗難防止解除あるいは物品監視解除時に “00H” を、物品監視時には “01H” を EAS データとして設定してください。

Option_flag (bit 7) が “0” の場合には、応答器は書き込み動作の完了後、 $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数” に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が “1” に設定された場合は、応答器はリーダーライターからの単一 EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われないときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Write EAS)	IC 製造者コード (必須)	UID (Addressed モードの場合)	データ	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“A1H”)	8 ビット (“08H”)	64 ビット	8 ビット (“00H” または “01H”)	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

3-3. Kill コマンド

Kill コマンドを受信した応答器は、リーダライタからのすべてのコマンドに対して一切の処理を行わない、無応答状態 (Dead 状態) になります。仮に応答器を磁界外に出した (Power-Off 状態) 後に再び磁界内に入れた (Power-On 状態) としても、Ready 状態には復帰しません。すべてのコマンドに対して一切の行いません。また応答も返しません。

・リクエスト

[リーダライタ→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Kill)	IC 製造者コード (必須)	UID (必須)	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“A6H”)	8 ビット (“08H”)	64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダライタ]

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	16 ビット	

(注意事項) Kill コマンド受信後は、すべてのコマンドを実行できなくなりますので、Kill コマンドの使用には十分注意してください。

3-4. Fast Inventory コマンド

Fast Inventory コマンドは、Inventory コマンドと同様にアンチコリジョンシーケンスを実行するコマンドです。このレスポンスは ISO/IEC 15693 で規定される通常のレスポンスの半分の時間で返します。本コマンドでエラーを検出した場合は、エラー応答を返しません。

Inventory_flag(bit 3) を “1” に設定してください。

AFI_flag(bit 5) を “1” に設定した場合、Inventory コマンドの Optional AFI 値と応答器で設定された AFI 値が以下の場合にのみレスポンスを返します。

- ・Optional AFI 値と応答器の AFI 値が一致した場合
- ・Optional AFI 値の上位 4 ビットが “0H” かつ下位 4 ビットと応答器の AFI 値の下位 4 ビットが一致した場合
- ・Optional AFI 値の下位 4 ビットが “0H” かつ上位 4 ビットと応答器の AFI 値の上位 4 ビットが一致した場合
- ・Optional AFI 値が “00H” の場合

例えば、応答器の AFI 値が “69H” の場合には、Optional AFI 値が “69H”, “60H”, “09H”, “00H” に設定された場合のみ、レスポンスを返します。

・リクエスト

[リーダライタ→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Fast Inventory)	IC 製造者コード (必須)	Optional AFI	マスク長	マスク値	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“B1H”)	8 ビット (“08H”)	8 ビット	8 ビット	0 ~ 64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダライタ]

SOF	フラグ	DSFID	UID	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	8 ビット	64 ビット	16 ビット	

3-5. Fast Read Multiple Blocks コマンド

Fast Read Multiple Blocks コマンドは、Read Multiple Blocks コマンドと同様に要求された複数の連続したブロックのデータを読み出すコマンドです。一度のリクエストで読出し可能なブロック数は最大 64 ブロックです。このレスポンスは、ISO/IEC 15693 で規定される通常のレスポンスの半分の時間で返します。

Option_flag (bit 7) が “1” に設定された場合には、応答器はブロックセキュリティステータスを追加します。

Option_flag (bit 7) が “0” の場合は、該当するブロックのデータのみを送信します。

リクエストに含まれるブロック数は、応答器が送信するブロック数から 1 を引いた値になります。ブロック数を “06H” と表記すると、7 ブロック読み出すリクエストになります。

ブロック数は最大 “3FH” まで表示可能です。

また、ブロック数を “00H” と表記すると、1 ブロック読み出すリクエスト (Read Single Block コマンドと同じリクエスト) になります。

・リクエスト

[リーダーライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Fast Read Multiple Blocks)	IC 製造者 コード (必須)	UID (Addressed モードの場合)	先頭の ブロック番号	ブロック数	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット (“C3H”)	8 ビット (“08H”)	64 ビット	8 ビット	8 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダーライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット (“01H”)	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	ブロックセキュリティ ステータス (オプション)	データ	CRC	EOF
	8 ビット (“00H”)	8 ビット	64 ビット	16 ビット	
必要に応じて繰返し					

3-6. Fast Write Multiple Blocks コマンド

Fast Write Multiple Blocks コマンドは、Write Multiple Blocks コマンドと同様にリクエストに含まれる複数の連続したブロックデータの書き込みを行うコマンドです。一度のリクエストで書き込み可能なブロック数は最大2ブロックです。このレスポンスは ISO/IEC 15693 で規定される通常のレスポンスの半分の時間で返します。

書き込み時にはベリファイ動作を行い、データ不一致の場合はエラー応答を返します。また、Read Multiple Blocks コマンドと同様、リクエストに含まれるブロック数は、応答器が送信するブロック数から 1 を引いた値になります。

ブロック数を“01H”と表記すると、2ブロック書き込むリクエストになります。また、ブロック数を“00H”と表記すると、1ブロック書き込むリクエストになります。

リクエストで指定したブロックのうち少なくとも1つがロックされていた場合は、書き込みを行わずエラー応答を送信します。

Option_flag (bit 7) が“0”の場合には、応答器は書き込み動作の完了後、“ $t_{1nom} (320.9 \mu s) + 4096/fc (302.1 \mu s)$ の倍数”に対して $\pm 32/fc (2.4 \mu s)$ の精度で、遅くとも 20 ms 以内にレスポンスを送信します。Option_flag (bit 7) が“1”に設定された場合には、応答器は EOF の受信を待ってレスポンスを返します (ただし、単一 EOF 送信が 38 ms 以内に行われなときはタイムアウトとなり、コマンドの受信が可能になります)。

・コマンド

[リーダライター→応答器]

SOF	フラグ	コマンド (Fast Write Multiple Blocks)	IC 製造者 コード (必須)	UID (Addressed モードの場合)	先頭の ブロック 番号	ブロック 数	データ	CRC	EOF
	8 ビット	8 ビット ("C4H")	8 ビット ("08H")	64 ビット	8 ビット	8 ビット	32 または 64 ビット	16 ビット	

・レスポンス

[応答器→リーダライター]

(1) Error flag がセットされた場合

SOF	フラグ	エラーコード	CRC	EOF
	8 ビット ("01H")	8 ビット	16 ビット	

(2) Error flag がセットされない場合

SOF	フラグ	CRC	EOF
	8 ビット ("00H")	16 ビット	

4. コマンド実行時間

4-1. Write Multiple Blocks コマンド実行時間

Write Multiple Blocks コマンドを実行して、FeRAM ユーザ領域の全域 (232 バイト) に書き込みをするのに必要な最小時間 (Addressed モードで処理) は、ベリファイを含めて 249 ms と計算されます。

4-2. Read Multiple Blocks コマンド実行時間

Read Multiple Blocks コマンドを実行して FeRAM ユーザ領域の全域 (232 バイト) の読出しをするのに必要な最小時間 (Addressed モードで処理) は、76 ms と計算されます。また、Fast Read Multiple Blocks コマンドの場合は、41 ms と計算されます。

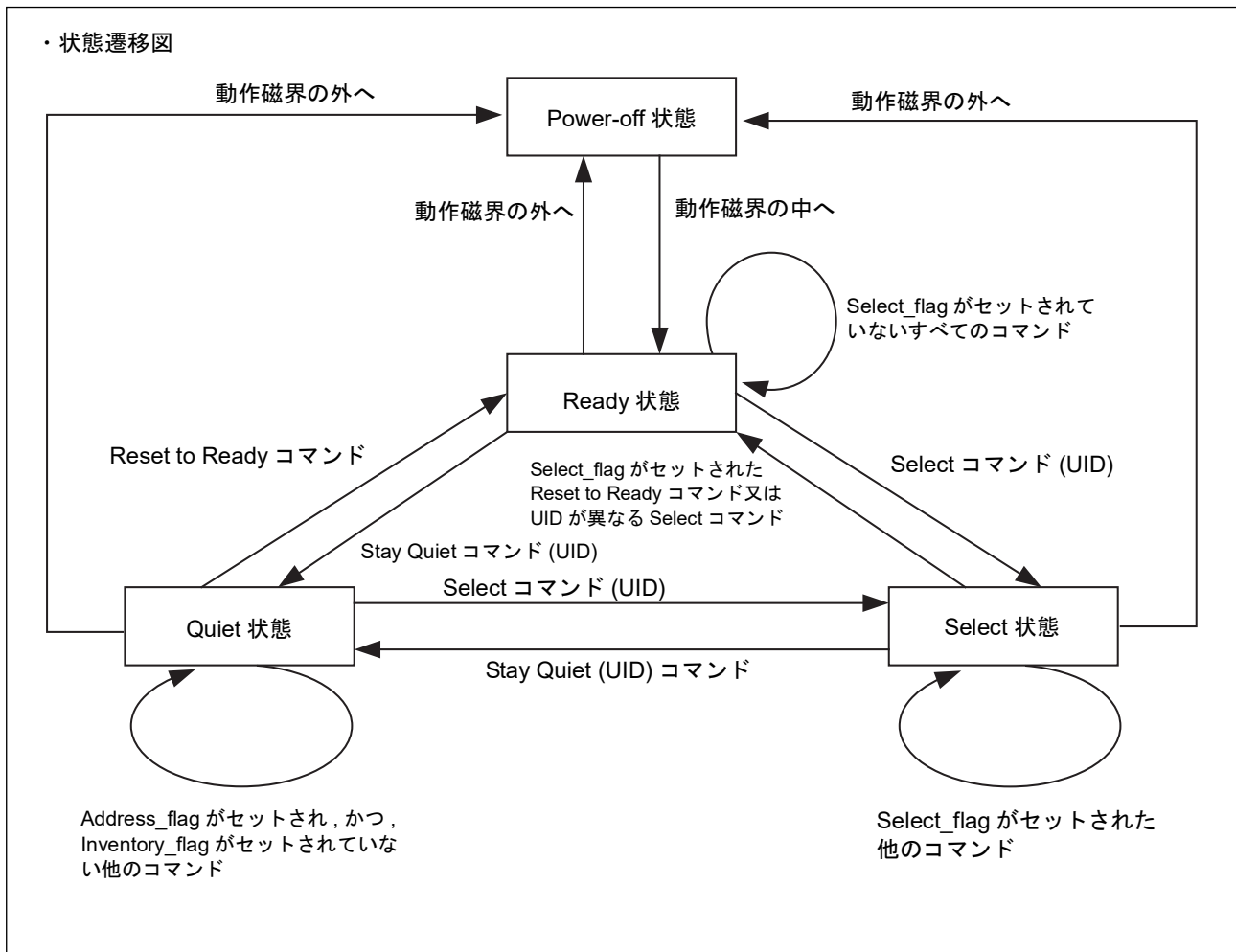
■ 状態遷移図

・状態の定義

MB89R119B の各状態は、以下のように定義されます。

- ・ Power-off 状態 : リーダライタからの電圧が不足して、応答器が動作しない状態
- ・ Ready 状態 : Select_flag がセットされていない場合に、すべてのコマンドを実行できる状態
- ・ Quiet 状態 : Inventory_flag がセットされず、Address_flag がセットされたコマンドを実行できる状態
- ・ Select 状態 : Select_flag がセットされたコマンドを実行できる状態

状態間の遷移は、下図に示すパワー状態およびコマンドによって行われます。



MB89R119B

■ 絶対最大定格

項目	記号	定格値		単位	備考
		最小	最大		
最大アンテナ入力電流	I_{max}	—	90	mA _{p-p}	
入力電流	I_{RF}	—	30	mA _{rms}	アンテナ接続時
静電耐圧	$ V_{ESD} $	—	2	kV	人体モデル
保存温度	T_{stg}	- 55	+ 125	°C	

<注意事項> 絶対最大定格を超えるストレス（電圧、電流、温度など）の印加は、半導体デバイスを破壊する可能性があります。したがって、定格を一項目でも超えることのないようご注意ください。

■ 推奨動作条件

項目	記号	規格値			単位	備考
		最小	標準	最大		
最小アンテナ入力電圧	V_{RF}	—	7.5	10.2	V _{p-p}	アンテナ接続時
ASK 変調度（10% 変調時）	m	10	—	30	%	アンテナ接続時
ASK 変調度（100% 変調時）	m	95	—	100	%	アンテナ接続時
ASK パルス幅（10% 変調時）	t1	6.0	—	9.44	μs	アンテナ接続時
	t2	3.0	—	t1	μs	アンテナ接続時
	t3	0	—	4.5	μs	アンテナ接続時
ASK パルス幅（100% 変調時）	t1	6.0	—	9.44	μs	アンテナ接続時
	t2	2.1	—	t1	μs	アンテナ接続時
	t3	1.0*	—	4.5	μs	アンテナ接続時
	t4	0	—	0.8	μs	アンテナ接続時
入力周波数	F_{in}	13.553	13.560	13.567	MHz	アンテナ接続時
動作温度	T_a	- 20	—	+ 85	°C	

* : ASK100% における t3(最小値) は、ISO/IEC15693 の規定と異なります。

<注意事項> 推奨動作条件は、半導体デバイスの正常な動作を確保するための条件です。電気的特性の規格値は、すべてこの条件の範囲内で保証されます。常に推奨動作条件下で使用してください。この条件を超えて使用すると、信頼性に悪影響を及ぼすことがあります。

データシートに記載されていない項目、使用条件、論理の組合せでの使用は、保証していません。記載されている以外の条件での使用をお考えの場合は、必ず事前に営業部門までご相談ください。

(注意事項) 応答器の通信特性は、接続するアンテナやリーダライタの特性、使用環境により左右されるため、ご使用になる条件にて、タグの通信特性を含め動作に問題ないことをご確認ください。

本推奨値は、入力容量 24pF 品における以下のアンテナ条件において動作確認したもので、リーダライタからの動作送信波の推奨条件を規定しています。

外形寸法 : 75 mm×46 mm

巻き数 : 6

アンテナ幅 : 1 mm

アンテナ間ピッチ : 0.4 mm

■ 電気的特性

項目	記号	規格値			単位	備考	
		最小	標準	最大			
負荷変動抵抗	R _{lsw}	—	1.1	—	kΩ		
入力容量*	24pF 品	C _{ant}	22.8	24.0	25.2	pF	アンテナ間電圧 = 2 V _{rms}
	96pF 品		86.4	96.0	105.6		

*：入力容量は何れかの仕様の選択となり、型格によって区別されます。
容量値はウェーハのプロセスモニタによる管理とします。

■ 使用上の注意事項

・電波インタフェースに関するその他の注意事項

- 応答器の通信特性は、接続するアンテナやリーダライタの特性により左右されます。従って、お客様のアプリケーションで要求される通信距離や設置環境にあわせて、最適化してください。
- 複数の応答器とアクセスを行う場合には、応答器どうし、または応答器とリーダライタの干渉により、通信距離や通信時間が低下する可能性があります。したがって、複数の応答器を使用するシステムを設計する場合には、十分な考慮をお願いします。

・FeRAM の特性

項目	規格値		単位	パラメータ
	最小	最大		
書き込み / 読出し耐性 *1	10 ¹²	—	回 / バイト	動作周囲温度 T _A = + 85 °C
データ保持特性 *2	10	—	年	動作周囲温度 T _A = + 85 °C
	30	—		動作周囲温度 T _A = + 70 °C*3

* 1 : FeRAM は破壊読出しを行なっているため、書き込みおよび読出し回数の合計が書き込み / 読出し耐性の最小値です。

* 2 : データ保持特性の最小年数は、出荷直後に初めて読み書きしたデータの保持時間です。

* 3 : この保持時間は、信頼性評価結果からの換算値です。

・ISO/IEC 15693 規格との差異

ISO/IEC15693 で規定される機能と MB89R119B の機能との比較を下表に示します。

MB89R119B は、次の機能をサポートしていませんのでご注意ください。

- ・データコーディングでの 1 out of 256 モード
- ・2-サブキャリア

なお、Read Multiple Blocks コマンドは、最大 64 ブロック、Write Multiple Blocks コマンドは、最大 2 ブロックまでの対応となります。

・ISO/IEC 15693 と MB89R119B との機能比較

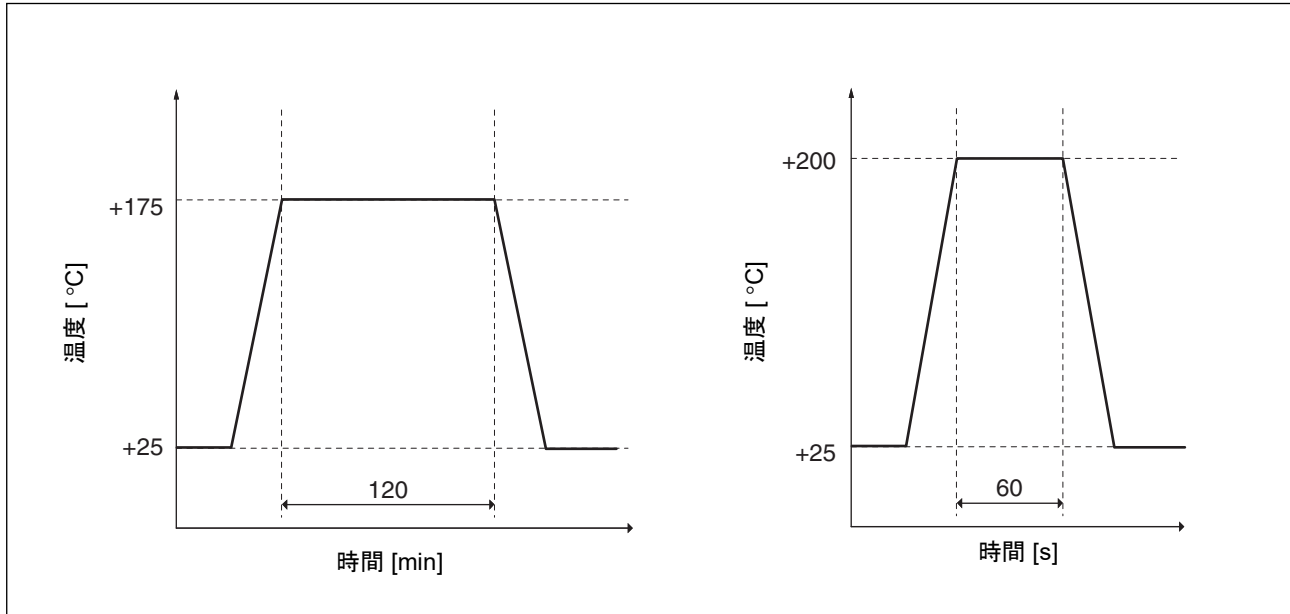
項目	ISO/IEC15693 規定	MB89R119B
変調方式	ASK 10%	対応
	ASK 100%	対応*
データコーディング	1 out of 256	未対応
	1 out of 4	対応
サブキャリア	1-サブキャリア	対応
	2-サブキャリア	未対応
Mandatory コマンド	Inventory コマンド	対応
	Stay Quiet コマンド	対応
Optional コマンド	Read Single Block コマンド	対応
	Write Single Block コマンド	対応
	Lock Block コマンド	対応
	Read Multiple Blocks コマンド	最大 64 ブロックまで対応
	Write Multiple Blocks コマンド	最大 2 ブロックまで対応
	Select コマンド	対応
	Reset to Ready コマンド	対応
	Write AFI コマンド	対応
	Lock AFI コマンド	対応
	Write DSFID コマンド	対応
	Lock DSFID コマンド	対応
	Get System Information コマンド	対応
	Get Multiple Block Security Status コマンド	対応

* : ASK100% における t₃(最小値) は、ISO/IEC15693 の規定と異なります。■ 推奨動作条件を参照してください。

■ ウェーハ形状品の推奨実装条件

FeRAM データ保持特性を維持するため、チップを実装するには、以下に示すような条件で実装されることを推奨します。

- 実装温度 + 175 °C 以下, 高温印加時間 120 分以下 あるいは
- 実装温度 + 200 °C 以下, 高温印加時間 60 秒以下



MB89R119B

■ オーダ型格

型格	入力容量	出荷形態	不良チップ表示
MB89R119B1-DIAP15-JN	24pF	ウェーハ(ダイシングフレーム) 金メッキバンプ付き ウェーハ厚 :150 μm ±25.4 μm	ウェーハマップ
MB89R119B1-DIAP15-JNP1			インクマーク
MB89R119B2-DIAP15-JN	96pF		ウェーハマップ
MB89R119B2-DIAP15-JNP1			インクマーク

■ 本版での主な変更内容

変更箇所は、本文中のページ左側の | によって示しています。

ページ	場所	変更箇所
—	全般	技術用語の変更 FRAM → FeRAM

MB89R119B

RAMXEED 株式会社

〒 222-0033

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 100 番 45 (新横浜中央ビル)

<https://ramxeed.com/jp/>

本資料の記載内容は、予告なしに変更することがありますので、製品のご購入やご使用などのご用命の際は、当社営業窓口にご確認ください。
本資料に記載された動作概要や応用回路例などの情報は、半導体デバイスの標準的な動作や使い方を示したもので、実際に使用する機器での動作を保証するものではありません。したがって、お客様の機器の設計においてこれらを使用する場合は、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因する損害などについては、当社はその責任を負いません。

本資料は、本資料に記載された製品および動作概要・回路図を含む技術情報について、当社もしくは第三者の特許権、著作権等の知的財産権やその他の権利の使用権または実施権を許諾するものではありません。また、これらの使用について、第三者の知的財産権やその他の権利の実施ができることの保証を行うものではありません。したがって、これらの使用に起因する第三者の知的財産権やその他の権利の侵害などについては、当社はその責任を負いません。

本資料に記載された製品は、通常の産業用、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途に使用されることを意図して設計・製造されています。極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など）、または極めて高い信頼性が要求される用途（海中継器、宇宙衛星など）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。したがって、これらの用途へのご使用をお考えのお客様は、必ず事前に当社営業窓口までご相談ください。ご相談なく使用されたことにより発生した損害などについては、当社は責任を負いません。

半導体デバイスには、ある確率で故障や誤動作が発生します。本資料に記載の製品を含め当社半導体デバイスをご使用いただく場合は、当社半導体デバイスに故障や誤動作が発生した場合も、結果的に人身事故、火災事故、社会的な損害などを生じさせないよう、お客様の責任において、装置の冗長設計、延焼対策設計、過電流防止対策設計、誤動作防止設計などの安全設計をお願いします。

本資料に記載された製品および技術情報を輸出または非居住者に提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米商輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

本資料に記載されている社名および製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。